

広報 あいづ ばんげ

8

No.684
2021

目次 -CONTENTS-

古川新町政がスタート!	2
「日本一の酒処ふくしま」を支える会津坂下町の酒蔵	4
まちの話題	6
マイナンバーカードの出前講座について	7
令和3年度国民健康保険税に関するお知らせ	8
特定健診を積極的に受診しましょう!	9
高額介護サービス費などの上限額が一部変わります	10
8月1日から、保険証が新しくなります!	11
下水道の正しい使用をお願いします	12
お知らせインフォメーション	13
図書室だより・町史編さん調査余話(46)	19
こどもと健康の広場	20
栗村稻荷神社例大祭 御田植祭	22

表紙：かくれんぼ～坂下中央公園にて～

古川新町政がスタート!



経 歴

【氏名】 ふるかわ しょうへい 古川 庄平

昭和28年11月20日生(満67歳)

【行政区】 宇内

【学 歴】

昭和47年3月 福島県立喜多方工業高等学校卒業

【職歴等】

昭和47年8月 滝谷建設工業株式会社

(平成13年8月 退社)

平成19年3月 株式会社アルス古川 代表取締役

【役職歴】

平成12年4月 会津坂下町議会議員(～令和2年3月)

平成22年4月 会津坂下町議会副議長

平成26年6月 会津坂下町議会議長(～令和2年3月)

平成28年4月 両沼地方町村議会議長会会長

平成29年6月 福島県町村議会議長会副会長

令和 元年5月 両沼地方町村議会議長会副会長

6月 福島県町村議会議長会監事

令和 3年6月 会津坂下町長

令和3年6月6日執行の会津坂下町長選挙において、無投票により初当選した古川庄平町長が、6月16日に初登庁しました。
「共に考え、知恵を出し合い、町民の皆さまから信頼される行政を目指します。」と、力強くあいさつし、古川新町政のスタートを切りました。

新町長挨拶

次世代へ繋ぐ、まちづくりを進めてまいります

会津坂下町長 古川 庄平

会津坂下町長就任にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

齋藤文英前町長の任期満了に伴い会津坂下町長選挙に立候補し、この度、町政のかじ取りを担わせていただくことになりました。

私は、町議会議員を5期20年務めさせていただき、町政運営や町の課題について関わってまいりました。議員から町長へと立場が変わり、「大好きな会津坂下町のために」という思いはますます強いものとなりました。

この思いを胸に、各種施策に積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

私は「次の時代を担う若い世代が、まちづくりを繋ぐ主役であるべきだ。」と考え、若い世代が活躍できる会津坂下町を目指してまいります。また、このまちづくりを実現すべく、「新しいまちづくりの推進」、「人づくり・少子化対策支

援」、「産業のさらなる振興」、「健康づくり」を四本の柱とし、町政を進めてまいります。

町政運営にあたっては、広く町民の皆さまよりご意見をいただき、まちづくりに反映してまいる考えであります。

町民の皆さまの行政に対する信頼を高



▲6月7日 当選証書付与式

め、当町に山積する課題を一つひとつ解決しながら、町政を前に進めてまいります。

町民の皆さまには、なお一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。ごあいさついたします。



▲6月16日 初登庁

「日本一の酒処ふくしま」を支える会津坂下町の酒蔵

5月21日に（独）酒類総合研究所・日本酒造組合中央会が主催する全国新酒鑑評会の審査結果が発表されました。福島県は、史上初となる8年連続の金賞受賞数日本一となり、「日本一の酒処ふくしま」をさらに確固たるものとした。県内では、60を超える酒蔵があり、それぞれ個性を生かした日本酒を造っています。

今回の特集では、古くから会津坂下町に根差し県内外、さらには海外の人々にも愛される日本酒を造り続け、「日本一の酒処ふくしま」を支える町内の酒蔵についてご紹介します。

曙酒造株式会社

明治37年創業以来、女性により代々受け継がれ、平成25年には創業以来初めて男性が当主となった酒蔵です。

今回お話を伺ったのは、7代目で創業以来初めての男性当主である鈴木孝市さんです。

現在のよう酒造りをするきっかけとなったのは、東日本大震災でした。

当時は、原発事故の影響により避難指示がどんどん拡大する中で、生まれ育ち当たり前に酒造りをしてきたこの土地を、外的な要因で離れなければならないかもしれないという危機感に苦しめられていました。結果として、避難す



ることは免れましたが、その時に改めて「生まれ育った会津坂下町が好きで離れたくない」という気持ちは確かなんだと分かりました。この経験は、「僕たちを育ててくれた会津坂下町の素晴らしさを酒を通して表現していこう」という現在の曙酒造の目指すところに繋がっています。

酒を造るうえでのコンセプトは「丁寧に清潔な仕事から生まれてくる清潔感」を大事にしています。

日本酒は、食事とともにあってほしいという思いもあるので、季節の野菜に合わせて飲む



▲7代目の鈴木孝市さん

などしながら、楽しんで飲んでほしいです。

将来の夢は、原発事故の影響で落ちてしまった福島県の評価を本来の評価に戻すために、酒造会社の強みを活かして福島県の土地の素晴らしさを分かってもらえるような取り組みをしたいとお話しいただきました。

株式会社廣木酒造本店

江戸時代、文化・文政年間（1804年～1830年）創業と伝えられている約200年続く酒蔵です。

今回お話を伺ったのは、9代目で代表取締役の廣木健司さんです。

現在の日本酒の世界は、「おいしい」は当たり前の世界なので、「おいしい」の先にあるものを、味以外でもお客さんに感じ取ってもらえる商品を作る蔵を目指していきたいと思っています。



飛露喜は、特別な時の節目節目で、その方の人生に寄り添いその方の特別な日に居合わせられるお酒でありたいと思っています。

泉川は、廣木酒造からの出荷先は福島県内だけに限定をしており、全体の量の7割ほどは会津管内に向け出荷しています。これは自分の地元・会津に対する思いであります。飛露喜は東京で勝負するお酒であり、泉川は地元において続けるお酒でありたい、そう考えています。



今までは、

特に自分の酒をどうやって競争の世界の中で磨きをかけていくかを考え前に進んできましたが、今後は、

自分の中のやりたいこと、追いかけてきたことを追求しつつ、町のなかで喜ばしく受け入れてもらえる蔵の姿を模索していきたいとお話いただきました。



豊國酒造合資会社

文久2年(1862年)創業で約150年続いている酒蔵です。今回お話を伺ったのは、5代目で代表の高久禎也さんと、6代目の高久功嗣さんです。

蔵のこだわりとしては、できるだけ機械に頼らず手作業で仕込みを行っています。米を洗うことに

関しても手で作業をします。酒造

期は氷点下の外気と気温が変わらない蔵の中で、手袋もつけずに肘まで冷たい

水に浸かった状態で米を洗うのを何回も繰り返し返します。手作業で行うことで自分の作ったお酒に対しての思い入れが膨らみます。現代のシステム化された酒造りの中でも、このような手作業で行う伝統を残していくことも我々の仕事のひとつだと考えています。

また、「地域のひとに愛される蔵と酒を目指したい」という蔵元



の目標があります。目標を掲げただ日が浅いので、具体的な成果はまだありませんが、商品としての酒、作る人間、それらをまとめる会社、この3つ想いが重なった時に実現されるものではないかと考えており、日々試行錯誤を繰り返しております。

今後も由緒ある伝統を守りながら、変化を恐れずに時代を先駆けた方法・手法で、今まで日本酒を手にとったことのない方々へのアプローチをしながら、日本酒のおいしさを広めていきたいとお話しいただきました。



▲ 5代目の高久禎也さん 6代目の高久功嗣さん

今回取材させていただいた皆さんからは、それぞれ地元を愛する気持ち伝わってきました。この機会に町内のお酒を味わってみてはいかがでしょうか？